

世界子ども愛樹祭コンクールで 橋口さん、柿本さんが受賞

このコンクールは20回を迎え、中国、韓国など世界各国から6万点以上の作品が寄せられます。詩・作文の部で【みどりの賞（福岡県教育委員会賞）】を橋口あすかさん、絵画の部で【さくら賞】を柿本ありすさんがそれぞれ受賞しました。その作品をご紹介します。（学年は平成22年度のものです。）

「クスノキの歴史」

須恵第二小学校4年

橋口あすか

この大きな木は、どこの木でしょう。それは第二小学校の運動場のすみっこにある二本のクスノキです。この二本のクスノキはそばにあるタイヤにのっている人でも下のほうのえだしかさられないほど大きいのです。



これは二本のクスノキの間にたっているたてふだです。このたてふだに、「平和祈念樹」と書いてあります。なぜ、平和祈念樹なのでしょう。よこのほうを見てみましょう。長崎市山王神社被爆クスノキ（二世）と書いてあります。この木が被爆にあったのでしょうか、確かめてみましょう。



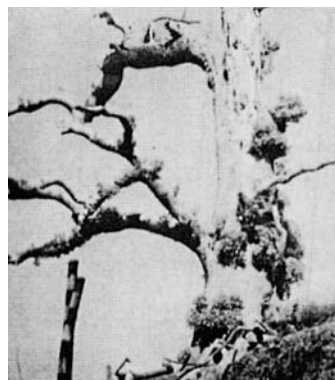
これは、十一月にとった写真です。十一月ごろになると木の葉は色がオレンジになったり赤になったりしています。でもこのクスノキは、まったく色がかわっていません。あまり夏の葉と色が変わっていません。それほど元気な木なのです。このクスノキには長い歴史があります。その歴史を見てみましょう。



これは長崎にげんばくが、落ちた直後の写真です。緑がすべてなくなっています。そして、大切な人のいのちまで、げんばくにうばわれてしまったのです。そして長崎の時がとまったようになつてしまったのです。すべてまっくらこげになった中でどこかの神社のとりいがのこっています。下のほうがすこしくろく、左がわの柱がすこしゆがんでみえます。そのとりいの右側に、柱が一本しかたつていないとりいがたっています。手前のとりいよりひがいが大きかったんでしょ。ここからではみにくいのでちかづいて見てみましょう。



一本とりいのちかくにきました。とりいのもう一本の柱はどこにいったのでしょうか。かいだんがくずれたり、ななめになつています。左のほうの石が右にもあるはずなのにどこにもありません。どこにいったのでしょうか。どこにもみあたりません。そして一本柱のうしろに大きな木がたつています。ほかの木がたおれていてもこの木はのこっています。この木を見てみましょう。



木のみきがえぐられています。一九四五年八月九日十一時二分ともあつて葉も多かったはずなのに葉もまっくらこげになつてしまっています。げんばくのおそろしさがつたわってきます。げんばくにあつた人々は、「山王神社のクスノキが死んだぞ、まっくらこげになったぞ。」といったとても悲しんだそうです。

それから一年たち二年たった時山王神社のクスノキが若い芽をだしたのです。人々はとてもよるこびました。いまだうなっているのでしょうか。戦争にあつたクスノキは、いまも山王神社ですくすくと育っています。この木の大きさは、とても大きくだいたいでは、どれくらい大ききかわかりません。このクスノキの大きさを見てみましょう。



クスノキの大きさは高さがないと二十一m、幹の周りは八m六十三cm、なんと高さは五階建てのビルの高さで、幹の周りは、子どもが五人手をつないで大きく広がったじょうたいです。このきろくが四年前にはかつたきろくだから少しは大きくなったと思います。いまもこの木には戦争のつめあとが、はっきりと残っています。そのつめあとを見てみましょう。



木のまん中に、大きな穴が開いています。戦争は、あんなに強い木もここまでしてしまうのです。それでも、この木は、生き残りました。それは、木のいきようという力がつたわたたのかもしれません。この木の子どもが、しきみ中学校の人たちが育てて、そのなえをもらって、植えてくれた木戸さんやみんな

の協力があつて植えられた、とても大切な木がこの第二小学校にあるのです。木戸さんたちのねがいがつうじ今もあの大きなクスノキたちは、げんきに生きています。いまだにテロや、戦争があつているので、早く終わればいいと思います。



須恵第二小学校4年
柿本ありすさんの作品

平成23年度 厚生労働省慰霊巡拝

▶参加資格 戦跡慰霊巡拝を行う戦域における戦没者の遺族（配偶者（再婚した人は除く）、父、母、子、兄弟姉妹）および弾力的運用（戦没者の孫、参加する遺族（子・兄弟姉妹の配偶者））の人で、実施時期に原則80歳以下の人

▶巡拝予定地域

	実施予定時期	日数	予定人員
<旧ソ連>			
グルジア・ウクライナ	8月29日(月)	10	15名
ハバロフスク地方	9月9日(金)	8	15名
アムール州	9月9日(金)	8	15名
沿海地方	9月26日(木)	8	15名
<モンゴル>			
モンゴル	9月7日(水)	8	15名
<中国>			
中国東北地方	9月5日(月)	11	10名
<南方>			
パラオ	9月30日(金)	7	15名
インドネシア	10月13日(木)	9	15名
ソロモン諸島	10月26日(水)	8	20名
東部ニューギニア	11月9日(水)	8	30名
フィリピン	2月15日(水)	10	60名
硫黄島 (1次～3次)	調整中	2	100名

▶問合せ先 健康福祉課（居住する市町村の援護担当課）または福岡県福祉労働部保護・援護課
☎ 643-3301

福岡県立新設特別支援学校（仮称）の説 明会・就学相談など のおしらせ



平成24年4月、太宰府市に新設特別支援学校（仮称）が開校します。知的障害教育部門（小中高）、肢体不自由教育部門（小中高）を併置する学校です。

●学校説明会

▼日時 6月3日（金）14時～15時30分

▼場所 アザレアホール須恵3階大会議室

▼対象 ①新設校への転入学を希望または検討する幼児児童生徒の保護者②新設校高等部受験を希望または検討する中学校を卒業した人または平成24年3月卒業見込の生徒の保護者

●就学相談など（個別）

▼日時 8月11日（木）・12日（金）10時～16時のうち50分

▼場所 アザレアホール須恵

▼対象 ①新設校への転入学を希望または検討する幼児児童

●児童生徒および保護者②新設校高等部受験を希望または検討する中学校を卒業した人または平成24年3月卒業見込の生徒および保護者

●申込み方法 在籍する小学校、中学校や幼稚園、保育所または、子ども教育課へおたずねください。

●その他 特別支援学校在籍者については、別途説明会および就学相談などを実施します。詳しくは、福岡県ホームページをご覧ください。

http://www.pref.fukuoka.jp/

●問合せ先 新設特別支援学校設立準備室（県庁義務教育課内）

☎ 643-3932